

学校運動部活動の意義に関する一考察

A study on the meaning of athletic club activity of school

1K05A008

阿部 静

指導教員

主査 吉永武史先生

副査 宮崎正己先生

【本研究の動機】

私は小学校2年から現在まで、競技としてソフトテニスに取り組んできている。そのなかで私がいた環境は、監督や先生に叱られながらやらされる練習ではなく、選手自らが常に課題を持ち、監督からのアドバイスをヒントに新しいことへと挑戦していくようなチームであった。私は勝つことのみを目指して体罰を行ったり、ドーピングなどのフェアプレーに反することをを行い勝利することに価値がないと思っている。このような指導を行うのでは、スポーツが本来持つ価値や、運動部活動を伝えることはできない。そこで本研究では体罰を一度も受けたことのない人で、全国大会に出場したり優勝でさえも可能であるこれらのスポーツの事例を取り上げながら、運動部活動で本来伝えるべき価値は何かについて検討していきたいと思い、本テーマを設定した。

【本研究の目的と方法】

運動部活動における指導のあり方やその問題点について検討し、今後の運動部活動の方向性について提言をすることを目的とする。本論文は、スポーツにおける勝利至上主義に関連する文献を購読し、考察を進めていく文献研究の方法を用いる。また、インターネット上に掲載された勝利至上主義についての情報についても参考とする。

【各章の概要】

第一章ではスポーツ指導における勝利至上主義の功罪について検討していく。ここではレクリエーションスポーツとしてではなく、競技スポーツとして

のスポーツの特性について明確に検討していく。その中で、スポーツを楽しむという心を忘れていることが多いことに気づく。また、運動部活動と体育授業におけるスポーツ観の違いについても比較していく。体育授業と運動部活動で求められることの違いを明らかにし、指導者は混同のないようにしなければならない。また、競技スポーツにおいて勝利至上主義がもたらす功罪にとはどのようなことがあるのか具体例を用いながら検討していく。

第二章では指導者のスポーツ哲学をもとに勝利至上主義についてさらに深く検討していくこととする。運動部活動においてはその指導者の哲学・考え方や信条が生徒たちの成長や教育に大きくかかわってくると考える。そこでどのような哲学が運動部活動の指導に求められているのかを明確にしていく。以前から運動部活動は勝利至上主義に傾倒していると考えられ、そのことによつてどのような問題点が生じてくるのかを実際の例を元に検討していく。また、勝つことを目指すことが悪いということではなく、どのように勝つことを目指すかという点について、真の勝利至上主義という考え方で効率よく勝てる方法についてスポーツ科学の知見に基づきながら考えていく。

第三章ではスポーツ指導の教育的価値について検討していく。今日、学校教育が抱える問題は非行、暴力、いじめ、学校崩壊、不登校など多岐にわたっている。これらの問題解決に向けて、運動部活動には大きな期待が寄せられていることを知る。ここではまず、運動部活動の現状を多角的に見つめ、そこから見えてくる課題について明確にしていく。そして運動部活動を受け持つ指導者

の専門的力量的関係性について、研究をもとに運動部活動の現状と照らし合わせながら検討していく。これらのことを踏まえて、これからの運動部活動のあり方について指導者の持つべき技術・精神面・知識などの面から明確にしていく。

結章では本論文のタイトルにもあるように、運動部活動の意義について考察し、また運動部活動における今後の課題について考察していくこととする。運動部活動を通じて「生きる力」を育むため

には、行き過ぎた勝利至上主義のような考え方があってはいけない。社会に出て一人前の人間として生きていくためには、勝つことよりも大切なことを学ぶべきだと思う。スポーツをする過程だけでなく人間として生きていくうえで大切な人間関係やコミュニケーション能力、忍耐力、礼儀・感謝の心、相手を思いやる優しさ、諦めない心などを学ぶことができる運動部活動を増やしていく必要があると考える。